

MELON 情報紙

Miyagi Environmental Life Out-reach Network



2015年1月★第111号

～ 謹 賀 新 年 ～

2015年という分かれ道 理事長 長谷川 公一



理事長 長谷川公一

2015年は、日本と世界にとって大きな分岐点となることでしょう。

1945年の敗戦からちょうど70年です。憲法を守るのか、自民党草案のような方向に憲法を変えるのか、2015年の最大の焦点はこの点にあります（2014年12月14日投票の衆院選の最大の焦点も、実はこの点にあります）。

私たちには「戦後責任」があります。戦後70年の歩みを、戦後70年の国づくりと地域づくりをどう評価するのか、という大問題です。

矢部宏治『日本はなぜ、「基地」と「原発」を止められないのか』（集英社、2014年10月刊）は、刺激的な切り口で、昭和天皇主導による「米国への自発的隷従」の歴史を批判しています。西ドイツには長く英仏米の3国の軍隊が駐留していましたが、1990年のドイツ統一にともなって、1994年までに旧東ドイツ地区のロシア軍を含む4ヶ国の軍隊は撤退しました（NATO軍として米軍が残っています）。フライブルクにあった旧仏軍駐屯地は返還され、ポーバン地区というエコタウンとして再生しました。ドイツの戦後は、1994年に終了しまし

た。一方、沖縄の戦後は終わっていません。日本が政治的には米国の「属国」的な立場にあることも否定できません。しかも日本は東アジアの隣国に友人がいません。隣の国と仲良くできない国が、国際的に尊敬されることはありえません。日本の戦後は終わっていないのです。戦後の西ドイツと統一後のドイツの首相は、あわせてわずかに8人、一方、戦後の日本の首相は34人です。

ウクライナ情勢の悪化によって、ヨーロッパにおける冷戦の復活も懸念されています。

気候変動問題では、2015年12月にパリで開催される会議（COP21）で、2020年以降の新しい枠組みに合意することになっています。日本の消極姿勢が目立っています。

2013年9月15日以降日本では全ての原発が停止しています。2014年のお正月に続いて、2015年も全原発が停止しているなかでお正月を迎えることができました。川内原発を皮切りに、何基かの原発再稼働が予想される2015年でもあります。

東北電力と東京電力管内では、2011年3月11日以来、原発は1基も動いていません。女川原発をどうするのか、真剣な議論が必要な2015年でもあります。

10年後にあれが大きな曲がり角だったな、と振り返られることになるだろう大きな分岐点が、2014年12月の総選挙であり、2015年なのです。

（2014年12月2日、衆院選公示日に）

MELONとは 公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク ― 通称「MELON」。1992年の地球サミットをきっかけに翌'93年に誕生しました。緑と水と食をとおりて環境とくらしを考え、地域と地球環境に寄与しようと多くの市民、学者、知識人、協同組合、企業、団体で作られたNGO（非政府組織）です。地域と地球環境を守るため1人ひとりの参加と協力をつなぎます。

MELON 会員募集

MELONの活動は会員の会費で支えられています。

MELON会員特典

- MELON主催イベントに会員割引で参加できます。
 - ごみや水、緑や食、自然エネルギーや企業の環境の取り組みなどをテーマに勉強会や見学会を行う部会に参加できます。
 - ボランティアや部会に参加することにボランティアポイントが1個もらえ、5個集まると1,000円分のMELON商品券と交換できます。
 - 年5回の情報紙をお届けします。
 - メールアドレス登録で、会員同士の情報交換ができるメーリングリストに登録できます。
- ～入会希望の方は事務局までお問合せください～

Index

- P1 新年理事長あいさつ「2015年という分かれ道」
- P2 「宮城県産材を使用した地球環境に優しい住宅のシンポジウム」開催／南三陸町・巨理町荒浜地区の水の神さま調査
- P3 幼稚園・保育園で広がる食の循環体験プログラム／バスで行く！「山形県の環境に取り組んでいる施設の見学会」
- P4 MELONcafe プチ講座／かんきょう読み聞かせ「じっぽーまいごのかっぱはいしんぼう」
- P5 協同組合からのお知らせ／100人リレートーク 後藤一磨さん
- P6 ストップ温暖化センターみやぎ通信／環境紙芝居はじまりはじまり～
- P7 仙臺農塾Vol.3楽しみから続けられる 楽しく美味しく／みやぎの森を体験し隊！活動中
- P8 トピックス／イベント一覧／編集後記

～震災復興の取り組み～

石巻市で「宮城県産材を使用した地球環境に優しい住宅のシンポジウム」を開催！

<見学会>

日 時：11月16日（日） 11：00～11：50

見学場所：石巻市幸町「ワタママ食堂」

参 加 者：13名

<シンポジウム>

日 時：11月16日（日） 13：00～16：30

会 場：石巻市みやぎ生協渡波店2F集会室

参 加 者：25名

講 師：

村松 淳司さん（東北大学多元物質研究所教授、MELON 理事）

新沼 慎二さん（NPO法人プッシュ・クロバ・コミュニティ代表理事）

瀬野 和広さん（有限会社設計アトリエ一級建築士事務所代表取締役）

長谷川公一さん（東北大学大学院文学研究科教授、MELON 理事長）

三浦 秀一さん（東北芸術工科大学教授）

ぬくもりやペレットストーブの暖かさを楽しんでいました。また、地元の食材をふんだんに使用したワタママ食堂特製弁当をおいしくいただきました。

午後には、これから住宅を建設予定の方や一般の方、工務店向けに「宮城県産材を使用した地球環境に優しい住宅」のシンポジウムを開催。宮城県の森林の現状がどれほど緊迫しているのか、震災後の石巻地区にはどんなエネルギーが望ましいのか、また、県産材を使うとどれほど地元の雇用増加や運搬の化石燃料が少なく済むのか、各専門家が問題点・課題点を提示し、会場全体で意見交換を行いながら進めました。参加者からは「自然エネルギーのシステムは何がおすすめか」「どれくらいの期間で元は取れるのか」など積極的に質問があり、三浦先生からは「太陽熱温水器がもっとも安価で投資した分も回収しやすい」との説明がありました。ブース展示では、県産材を積極的に使用している工務店や団体の情報も発信しました。今後もMELON版復興住宅検討委員会はこのようなイベントを開催していきます。



シンポジウムでは参加者から積極的に質問がありました



見学会ではワタママ食堂を設計した瀬野和広さんの説明を聞きました

午前中は県産材・省エネ・自然エネルギーを取り入れている店舗の見学会を行いました。説明は某番組で匠として出演した一級建築士の瀬野和広さんとワタママ食堂代表の菅野芳春さん。参加者は、木の

南三陸町・亘理町荒浜地区の水の神さま調査

「沿岸地域の『水の神さま』が繋ぐ水と人の歴史文化伝承を記録するプロジェクト」の野外聞き取り調査が本格的になってきました。11月24日は南三陸町、29日は亘理町荒浜地区、12月7日には仙台市若林区藤塚で聞き取り調査を行いました。南三陸町では3つの神社を調査し、そのうち志津川湾内の荒嶋に祀られている荒嶋神社を紹介します。



後景に見える荒嶋

荒嶋は照葉樹林の北限の自生の地であり、仙台周辺の林相とは趣を異にします。うっそうとしたタブノキに覆われた島の頂上に位置するのが荒嶋神社で、祭神は弁財天（学芸と水の神様）です。3.11の津波で島に入る鳥居と参道が壊されて渡ることができなかったのですが、復興事業の進展で修復され今回の調査となりました。

元は荒嶋の南にある弁天島の小祠でしたが、チリ地震津波を受けて被災した本浜地区にあった金刀比羅大権現、八大竜神碑を弁天宮に合祀して、現在の荒嶋に移転し、神社として登録したものだそうです。

夏の例大祭で行われる神輿渡御が南三陸町の夏祭りとなり、氏子さんたちの信仰から町のイベントへ変貌しましたが、今回の震災津波で氏子総代5名のうち2名の方が他所へ引越されるため、氏子組織の維持についても今後の課題だそうです。



修復された階段を上る。手前は津波で破壊された鳥居



案内人後藤一磨さんの解説を聞く

幼稚園・保育園で広がる食の循環体験プログラム

幼稚園や保育園では子どもを安全に預かるだけではなく、社会性を身につけ、正しい食生活の習慣をつけさせるために、食育に力を入れています。MELONが回収したアンケートによれば、園内の畑やプランターを活用して花ばかりでなく、園児の手でトマト・キュウリなどの野菜を植え、水やり、収穫、料理などの体験を通して食に親しんでもらうというプログラムを実施している園が大半です。

10月下旬からMELONが提案している「コンポスターを活用した給食残さの堆肥づくり」に取り組む園が広がっています。主として年中さん（4歳児）を対象に、コンポスターに生ごみを投入し、その堆肥を使用して来春に野菜を育てるスケジュールで動いています。

仙台市若林区にあるロリポップ保育園では11月11日に設置作業をしました。コンポスターへの投入の前に、先生方がペープサート「コンチャン大活躍の巻」（生ごみ堆肥化の紙人形劇）をその場で上演、園児たちの関心を引き出してくれました。その後MELONが園児と一緒にコンポスターに生ごみ、土、米ぬかを混ぜて初めての投入作業を行いました。

12月1日現在8園まで広がり、既に来春から開始の予約も2件あり、静かに、徐々に広がってきています。



ペープサート「コンチャン大活躍の巻」



生ごみと土・米ぬかを混ぜて投入



コンポスターの
コンチャン

バスで行く！「山形県環境に取り組んでいる施設の見学会」

日時：11月4日（火） 9：30～17：00

見学場所：協同組合山形ウッドエネルギー

株式会社エフピコ山形工場

ソーラーワールド株式会社

参加者：13名

山形県において地域社会に貢献し、地球環境に配慮した活動を行っている施設を3か所見学しました。協同組合山形ウッドエネルギーでは、間伐材を利用した木質ペレット燃料の製造と暖房機器のペレットストーブを見学。



（株）エフピコ山形工場でのトレーのリサイクルについて学習

2件目の株式会社エフピコ山形工場では、店頭で回収されたトレーを素材別に分別する作業を見学しました。トレーやペットボトルを集めて溶かし、

またトレーにする独自のリサイクル方式を採用しているのが特徴です。また、障がい者雇用支援にも積極的に力を入れています。

最後のソーラーワールド株式会社では、完成したばかりの社屋を見学しました。設計・



ソーラーワールド（株）で木材をふんだんに使った新社屋を見学

施工は株式会社建築工房零。木材をふんだんに使用し、2重サッシによる外気との断熱対策や、雪が積もっても大丈夫のように土台を高く上げているなど、冬は寒く雪が多い山形の地域性を考慮して設計されていました。また、太陽光発電など震災に強い再生可能エネルギーのシステムを導入しているのも特徴です。

参加者からは「ペレットストーブの使い方がよくわかった」「店頭のトレー回収ボックスを利用してみたい」「自然エネルギーの取り組みについて具体的に理解できた」といった声が聞かれました。



MELONcafe

11月8日（土）13：30～14：30
「着物をリメイク★椿の葉のブローチ作り」

11月は着古した着物の生地をリメイクして「椿の葉のブローチ作り」を行いました。仙台市の昨年度の「布類」のごみの排出量は1万t。購入する前に本当に今必要かを考えたり、古くて着なくなった服は小物にリメイクしたり小さく切って雑巾の代わりにすると、ごみの量を少しずつ減らすことができます。



着物でかわいいブローチができました♪



気仙沼でリメイクキャンドル作りを行いました！

気仙沼での出張MELONcafeでは、MELON評議員の菊地ひろ子さんが中心となって活動している「青空エコカフェ」に講師としてお邪魔し、リメイクキャンドルを作る講座を行いました。地球温暖化防止の一環として、クリスマスなどに電気を消してロウソクの明かりで過ごすことを推奨し、さらに家庭から出るごみの減量の説明も行いました。参加者からは「楽しくキャンドルを作ることができた。明かりを消して楽しみたい。」との感想が聞かれました。

今後もMELONcafeではごみの減量や地球温暖化防止に向けて活動していきたいと思います。



「じっぽーまいごのかっぱはいしんぼう」 ーものがたりは人間の「あぶりだし」ー

私たちになじみが深いのは岩手県遠野の河童（かっぱ）ですが、河童の伝説は日本のいたるところにあります。物語は私たちの日常を超えたものを登場させることによって、慌てふためいたりする私たちの、生活や考え方、人と人のかかわりの『粹』をうつしだしてくれます。

たつみや章／作 広瀬 弦／画「じっぽーまいごのかっぱはいしんぼう」（あかね書房、2009年）を読んでみましょう。作者のたつみや章さんの作品は83回「夜の神話」でもとりあげています。

台風の去ったあとに、野沢太郎は泥だらけになった河童を見つけます。誰も信じてくれないのですが、太郎は「じっぽ」という名前をつけて自分の部屋にか

くまっています。でも、餌になる魚をいつまでもやり続けることはできません。とうとう、大学の研究室にあずかられることになってしまったのです。しかし、研究室では調べるために『解剖』されるかもしれないという話を聞き、大学の研究室から『救い』だし、じっぽが棲める川を探します。



じっぽの登場で『あぶりだされる』私たちの生活や考え方は、この物語ではどうでしょうか？「教室に動物を連れてきてはいかんよ」と校務を果たそうとする教頭先生とそれに頼る担任の先生。何となくじっぽを連れて行ってしまう理系の大学生と研究室。太郎とじっぽの関係を研究する人たちはどう思っていたのでしょうか。そして、最初は迷惑がっていたが、一緒になってじっぽを逃がすことになる家族。見つからない、きれいなままの小川。

太郎は他の人たちと話ができなかったりするわけではありません。太郎のところに出来たじっぽは、自分とは違うものにも興味を持ったり、思いを馳せたりすることを教えに来たのでしょうか。

各協同組合からのお知らせ

MELON の協力団体である各協同組合が取り組んでいる、環境に関する情報をご紹介します。

～みやぎ生活協同組合～

お買い物で国際支援！フェアトレード・カフェ

フェアトレードは、「Fair（公正）」な「Trade（貿易）」です。社会的・経済的に立場の弱い人びとに仕事の機会をつくり、公正な対価を支払うことで彼らが自らの力で暮らしを向上させ、自立できるよう支援する仕組みです。フェアトレード商品の利用は、世界の貧困や環境破壊を食い止めることにつながる、とても身近な国際支援です。

カフェでは、フェアトレード商品を多数展示・販売。試食もあります。参加者特典有り♪

※カフェ終了後12時～13時まで展示商品の販売を行います。販売時間のみのご参加は申し込み不要です。
ただし、参加者特典・託児はありません。

日 時：2月28日（土）10：30～12：00

会 場：みやぎ生協文化会館ウィズ会議室

募集人数：50名程度（申込み多数の場合は抽選し、結果はハガキで連絡します。）

参 加 費：無料 託児：1歳から／無料（要事前申し込み）

募集締切：2月20日（金）

申込方法：はがき、ファックス、Eメール等で下記までお申し込みください。

申し込み・問合せ先 みやぎ生協生活文化部 フェアトレード・カフェ係
〒981-3194 仙台市泉区八乙女4-2-2
TEL：022-218-3880 FAX：022-218-3663 eメール：sn.mkankyok3@todock.jp



目指せ100人！ 環境リレートーク



第54人目の執筆者

後藤一磨さん

（南三陸木の家づくり互助会）

「エコ」ってなんだろう

エコロジーもエコ。エコノミーもエコ。私たちはどっちの意味で使っているのかな？エコロジーとエコノミーは相容れない関係とっていないかな？

エコロジーを日本語に訳すると生態学＝人間を含めた全生物の生活関係を研究する学問。ではエコノミーとは？経済＝経世済民の略、国を統治し人民の生活上の苦しみを救うこと、政治と同じと辞典には書いてある。

現代を生きる人々の生活上の苦しみとは何だろう。沢山あり過ぎて答えに困るが釈迦の言う四苦は人間だけのものではない。八苦も同じようなものかもしれない。釈迦は苦しみから逃れるには欲を少な

くすることと説いた。

私たちの苦しみは欲望をすべて満たそうとするとところにあるのかもしれない。

被災後、沢山の人々の支援があり、高台に12坪の木の家が建った。「汐（しお）だまり」と名付け、みんなが集まれる場所となった。板倉工法というほとんど木だけで出来た家である。暖房は「薪ストーブ」、トイレは「バイオトイレ」と自然環境を意識した。東日本大震災から学んだローテク、ナチュラルな生活を目指す。石油も水もあまり使わない経済的なライフスタイルである。

安倍政権が言う「アベノミクス」なる政策は欲望を刺激し拡大させる政策にみえる。欲望の拡大は苦を拡大させるようにみえてしかたがない。経世済民、本当の政治を目指してほしい。エコロジーなものはエコノミーなのだ。

… 次号執筆者紹介 …

高田 篤さん



ストップ温暖化センターみやぎ通信 Vol.67

新規のうちエコ診断士が活動開始

2014年8・9月に実施されたうちエコ診断士資格試験を経て、今年度新たなうちエコ診断士が誕生しました。厳しい資格試験に合格し、宮城県うちエコ診断実施機関へ登録した新規のうちエコ診断士は5名。既存の診断士も含めると全体で10名となりました。11月から、新規のうちエコ診断士も診断を開始しました。うちエコ診

断士も増え、さらにパワーアップして、家庭からの省エネを促進していきます！

会場診断の様子
(11月23日実施)



推進員だより No.16

互いの活動を伝えあい今後に活かそう！～推進員交流会開催～

日 程：10月26日（土）
会 場：フォレスト仙台 第5・6会議室
参加者：16名

平成26年度環境省補助事業「地域における地球温暖化防止活動促進事業」の一環として、推進員活動支援を目的とした「推進員交流会」を開催しました。昨年度の「地球温暖化防止啓発ツール作成・実践研修」で推進員自ら作成したツールを、今年度は地域イベントや講座で実際に実践・活用してい



都道府県CO₂排出
ランキングゲームを紹介！

ます。今回は、その活用事例の報告と意見交換を行いました。改善点や使用のコツなど、さまざまな意見交換ができ、今後さらなる改良が進みそうです。

そのほか、全国地球温暖化防止活動推進センター（JCCCA）が貸出を行っているツール「〇〇（まるまる）ボックス」の体験会を行いました。カラフルで見た目から楽しめる、分かりやすく、使ってみようといった声があり、活動のイメージが膨らんだ様子でした。



楽しくて分かりやすいと好評の
〇〇ボックス

今後も推進員同士の交流の場を積極的に設け、推進員活動の活性化を目指します。

環境紙芝居はじまりはじまり～

仙台長町紙芝居フェスティバル
日程：11月15日（土）
場所：たいはっくる、長町笹谷街道周辺
(MELONの上演場所：長町教会)



「ありがとうはんつぶマン」上演中！

紙芝居の活動を行っている8団体が協力し合い、長町の笹谷街道周辺の7か所で同時に紙芝居を上演しました。

MELONはボランティア含め5名で環境紙芝居「ありがとうはんつぶマン」と「モッタイナイ村のモッタくん」を上演。

通りすがりの子ども達の気持ちを引き付けるために、キャラクターによって声音を変え、たまに身振りも織り交ぜて上演しました。その難しいこと！事前の練習では、「悪役も小物か大物かによって声の雰囲気が変わるからイメージを作るといいよ」とアドバイスをもらい、キャラクターの背景にも意識を向ける面白い体験になりました。小雨が降る寒い日でしたが、たくさんの小学生が見に来てくれました。紙芝居は貸し出しもしています。ご希望の方は事務局までお問い合わせください。

仙臺農塾

仙臺農塾 Vol.3

楽しいから続けられる 楽しく美味しく

第3回大人の遠足 加美町編

「里山でパワーチャージ！～加美町の風土を味わう～」

日 程：10月26日（日）

内 容：加美町「食の文化祭」見学、農家民宿「おりざの森」でアップルパイ作り体験、農家レストラン「ふみえはらはん」で昼食、伝統野菜「小瀬菜大根」の収穫体験

ゲスト：渋谷文枝さん（ふみえはらはん代表）
早坂良平さん（加美町小瀬菜大根農家）

第4回「セツ森発！新米食べ比べと大人の芋煮会♥」

日 程：11月5日（水）

会 場：福祉プラザ9階 調理実習室&大広間

ゲスト：あさのゆかさん
（旬菜コーディネーター、「料理教室 セツ森」）

秋の大人の遠足は加美町。県内でもグリーンツーリズムに早くから取り組み、食農分野の先進的な取り組みが集まっています。18年前に開業した「ふみえはらはん」は、全国の農家レストランの先駆けです。合鴨農法で育った鴨肉や無農薬米、その時に採れた食材を使った素朴な味と、渋谷さんの朗らかな人柄が、多くの人々の心を掴み親しまれています。「食べてもらいながらいろんな人と話しができるのが楽しい」と渋谷さんは言います。訪れた人との会話から新た



「ふみえはらはん」の
渋谷文枝さん

なアイデアが生まれたり、つながったり、それが楽しいからこそ18年間続けてこられたのだそうです。

宮城の貴重な伝統野菜「小瀬菜大根」の唯一の生産農家・早坂さんは、訪れた私たちにその場で浅漬けを作りふるまってくれました。小さく辛い根ではなく、大きく長い葉の茎の部分を漬け物として食べ続けられてきた小瀬菜大根。唯一になっても生産し続けているのは、小瀬菜大根が好きだという思いと作り続ける誇りがあるからなのだと感じました。



唯一の小瀬菜大根農家
早坂良平さん

仙台の秋といえば「新米」と「芋煮会」。河原で芋煮を作って食べる行事ですが、忙しい社会人となると機会がありません。そこで、あさのゆかさんをゲストに室内芋煮会を楽しみました。大和町セツ森の農家出身のあさのさん。地元のお米やきのこも持ってきてくださり、食材の美味しさを生かした芋煮作りのコツを教えてくださいました。最後にあさのさんからは「芋煮も料理も楽しく作りましょう」との一言。それが美味しく作る一番のコツなのですね。みんなで作った芋煮は本当においしかったです！



（右端）ゲスト：あさのゆかさん
みんなでかんば〜い！！

みやぎの森を体験し隊！活動中

【第一弾】

8月NPO法人フォレストサイクル元樹（栗原）

4名参加 トビや軽架線を用いた木材の搬出作業体験

【第二弾】

10月NPO法人川崎町の資源をいかす会（川崎町）

9名参加 岩手県から招いた馬搬の見学

【第三弾】

11月せんだい・市民の森を創る会（仙台市宮城野区）

8名参加 のこぎりをを用いた間伐作業体験

面積の57%を森林が占める宮城には、たくさんの森林ボランティア団体が活動していることご存知ですか？仙台にも青葉区では芋沢・赤坂・荒巻、太白区は秋保・坪沼・茂庭、泉区は泉ヶ岳・館などたくさんの身近な森で、市民が手入れ作業を行っています。

MELONでは、そんな団体の日頃の活動にお邪魔して、作業のお手伝いをしたりさまざまな森の楽しみ方を体験

する「みやぎの森を体験し隊！」の活動を始めています。

日頃使わない筋肉を使って汗を流し、森の中でご飯を食べながら団体の方から森や活動への思いを伺う。忙しい毎日ではなかなか触れることのできない、森や自然を考え、何よりそれを楽しみながら取り組んでいる人たちに会えます。今後、春・夏・秋・（冬）の森に行き、作業や体験をしていく予定です。初心者でも学生でも年配の方でも体験したい方大募集中です！



馬の力強さと頭の良さに驚き



教えてもらいながら
初めてのノコギリ作業

MELON20周年記念誌を発行します!

MELONは2013年6月に20周年を迎え、理事会で20周年事業について検討を重ねた結果、これまでのMELONの足跡を残す意味で「20周年記念誌」を作成・発行することが決定しました。これを受けて2014年からMELON内に「20周年記念誌作成委員会」を設置し企画・作成を続けてきました。

内容は、これまでの活動や歴史を記録した「MELONのあゆみ」や主なテーマごとの関係者からの「寄稿集」、情報紙に掲載を続けてきた「リレートーク」、MELONの主要な関係者による「座談会」など盛りだくさんです。

この記念誌は、全会員へ送付する他、関係者、自治体、図書館等への寄贈を予定しています。



MELON20周年記念誌

補助金申請、締切迫る!!

受付予定件数4,900件のうち、
12月16日時点で3,951件突破しました!

MELONが受付窓口をしている「平成26年度宮城県住宅用太陽光発電システム補助金」の受付期間は、平成27年の2月27日(金)までです(必着)。

平成26年度の補助金は、平成26年1月1日～平成26年12月31日の間に電力受給を開始した、県内に住所を有する個人又は法人が対象となっています。

申請手続きに関する詳細は、以下URLからご覧下さい。
<http://www.melon.or.jp/melon/naiyou/taiyoukou.html>

編集後記

■1年が毎年加速していきます。昔、上司が言っていました。「20歳のときの1年は1/20、30歳のときの1年は1/30、40歳になると1/40とどんどん短くなっていくんだよ。」50歳まで1年を切り、元上司の言葉を実感しています。(小林)

■これからが寒さの本番ですが、「冬至は過ぎた。少しずつでも昼の時間帯が長くなってきているんだ!」と自分に言い聞かせて励みにしています。冬は太陽の暖かさのありがたみを実感します。(高橋)

MELON イベント情報

これから開催を予定しているイベント・会議をご紹介します。

各イベント参加者を募集しています。詳しくはMELON事務局までお問合せください。

※会員以外の方も参加できます。

1/15 (木)	自然エネルギー等普及プロジェクト 例会
1/19 (月)	みやぎ里山応援団 例会
1/21 (水)	企業交流部会 例会
1/28 (水)	「仙臺農塾第5回『宮城の海の今を知る! ~三陸の漁業・養殖業 復興中~』」開催
2/1 (日)	「みやぎ気候変動シンポジウム~気候変動のいま、そして私たちに求められること~(仮称)」開催
2/8 (日)	「なっ得! 発見! みやぎ環境フォーラム」にブース出展
2/15 (日)	「東北地区 ESD 環境教育プログラム成果発表会」開催
2/19 (木)	情報センター 例会
2/25 (水)	「仙臺農塾第6回『酪農ママの挑戦~西洋野菜を古川から~』」開催
3/8 (日)	「The メタン ~古くて新しいエネルギー~」にブース出展
3/14 (土)	「東北におけるこれからのエネルギーを考えるシンポジウム in 山形・最上町(仮称)」開催
3/25 (水)	「仙臺農塾第7回『もんでんさんに聞く 栗原市での有機稲作暮らし』」開催

※日程や内容の変更、上記以外にもイベント開催する場合があります。ご了承ください。

〈会員状況〉

790 名

法人 81
任意団体 14
個人 695

2014 年 12 月 16 日現在



ボランティアポイントカード制度 をご活用ください

会員の方には、「MELON ボランティアポイントカード」を発行しています。部会・プロジェクトの例会出席、作業やイベントでのお手伝いをすると、1ポイント差し上げます。5つ貯まると1,000円分のMELON協力商品券と交換できます。

MELON 協力商品券とは

みやぎ生協、日専連仙台で発行している商品券です。金額の一部がMELONに寄付され、環境保全活動にいかされます。宮城県内の日専連加盟店及びみやぎ生協の各店舗でご利用になれます。

発行元 公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク (MELON) Miyagi Environmental Life Out-reach Network

〒981-0933 仙台市青葉区柏木1-2-45 フォレスト仙台 5F

★事務局 TEL 022-276-5118 FAX 022-219-5713

★情報センター TEL 022-301-9146 FAX 022-219-5713

★ストップ温暖化センターみやぎ TEL 022-301-9145 FAX 022-219-5710

E-mail melon@miyagi.jp URL <http://www.melon.or.jp/melon/>



この印刷物は、輸送マイレージ低減によるCO₂削減や地産地消に着目し、国産米ぬか油を使用した新しい環境配慮型インキ「ライスインキ」で印刷しており、印刷用紙へのリサイクルが可能です。

※ MELON 情報紙は再生紙を使用しています。